

人を楽しませることがたくさん詰まった、グランモール公園の美術の広場だが、海のオブジェや噴水など、地面に近い場所に設置されているため、どうしても人の視線は足元に行きがちである。このひさしぶねは頭上に広がる空間をもっと楽しんでもらうための提案。

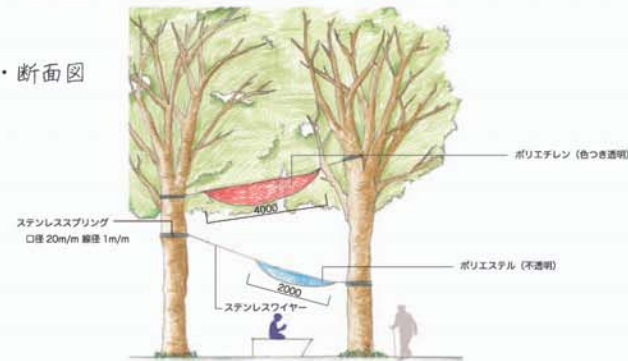
ひさしぶね



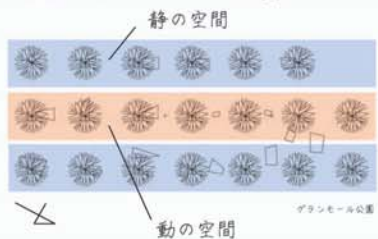
横浜の港を往来する船のように、ここグランモール公園に浮かぶ「ひさしぶね」。「ひさしぶね」によってできた色とりどりの影が白い海のオブジェの上をゆらぐ。時間によって、天気によって、様々な表情を見せる影。時には影と影が重なり、船の色と違う色が現れる。

青い小舟の下、強い海からの日差しを避けて、老夫婦がちよっと一息。その横の大きなオレンジの船の下では、こどもたちは元気に駆け回っている。老夫婦がこどもたちに向かってにこっと微笑み、こどもたちもにこっと微笑み返す。ひさしぶねは静と動の交わる空間を創り出す。

・断面図

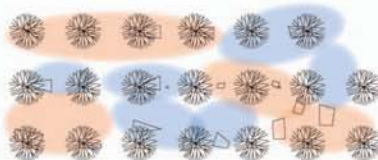


・現在のグランモール公園について



人の多い休日、通路側の既存のオブジェはちよっと座って一息つく静の空間。中央のオブジェでは子供たちが登ったりして遊んでいる動の空間となっている。通路側で休んでいる人と中央の子供たちは交わることがなかった。

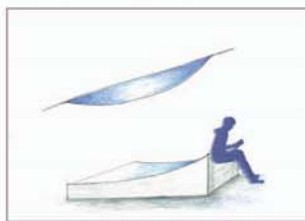
・「ひさしぶね」の提案



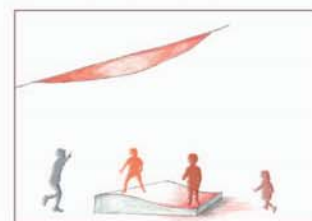
ひさしぶねは船の高低差やスケール、素材によって訪れる人にこの場所が特別であるという印象を与え、静と動の空間に変化をもたらす。

・空間

低く、小さな船の下でくつろぐ



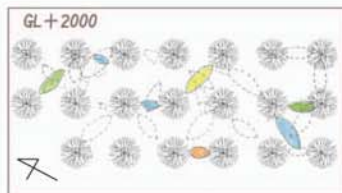
高く、大きな船の下で遊ぶ



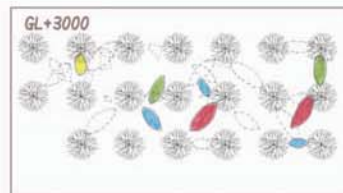
高く、小さな船の下でおしゃべり



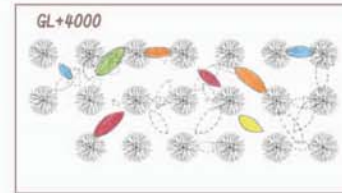
・配置図



人との距離が近いので、小さな船が多い



空間に重層性をもたらしている



大きな日影をつくる、高い位置の大きな船